平成 23 年度国立情報学研究所実務研修報告

平成 24 年 3 月 30 日
大阪大学附属図書館
吹田地区図書館サービス課　生命科学図書館班
藤江雄太郎

1. 研修の目的

2011 年 4 月に発足した大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）において，出版社との交渉等のコンソーシアム業務を経験することを目的とする。また，電子資料の契約に携わる図書館職員の業務をサポートするための，電子資料契約の入門書（『電子資料契約実務必携』）の作成も目的とする。

2. 研修先及び研修期間

研修先：国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室（JUSTICE 事務局）
研修期間：平成 23 年 10 月 17 日（月）～平成 24 年 3 月 16 日（金）

3. 研修内容

- 出版社との打ち合わせ・交渉への参加とその記録
- 交渉に必要な調査業務・事前資料やデータの作成
- 日本の出版関連団体，海外コンソーシアムとの情報交換
- JUSTICE 企画・行事の運営や参加
- 出版者からの JUSTICE 参加館向け契約条件提案書の標準化
- 『電子資料契約実務必携』の作成

4. 研修成果

JUSTICE 事務局での実務研修を通じて，電子資料に関する基礎的な知識から，最新の動向まで，幅広い情報を得ることができた。さらに，海外出版社との交渉に参加したことで，海外出版社がどのような考えを持って，日本の大学図書館向けに電子資料の販売・提供を行っているのか知ることができた。また，海外のコンソーシアムの担当者との情報交換などを通じて，日本の状況を相対化して考える視点をもつことができ，個々の大学というレベルを超えて，「日本の学術情報流通」について考える端緒となった。

JUSTICE 事務局での業務および，NII の学術コンテンツ事業の現状を知ることができたことで，中規模・小規模大学や，公立・私立大学といった，現在所属している大規模国立大学以外の状況やそれぞれが抱える問題について理解を深めることができた。

個別の研修課題である，『電子資料契約実務必携』の作成については，その部分的な

執筆や，全体の編集・内容の調整を通じて，自らの理解できていない部分，考えの及んでいない部分について改めて認識することができた。また，そういった部分について改めて調査・確認していくことで，電子資料について総合的な理解を得ることができた。

5. 受入体制，研修環境

- 5ヶ月間，NII から徒歩 5 分のウィークリーマンションを用意していただき，通勤に困ることはなかった。
- ウィークリーマンション近辺は，飲食店やドラッグストア，コンビニエンスストアなども多くあり，生活には困らなかった。
- 机は，図書館連携・協力室内に，職員の方と隣接して用意されており，情報共有や意見交換がとてもしやすい環境であった。

6. 研修を終えて

発足間もない JUSTICE の事務局にて実務研修をさせていただき，今後のコンソーシアムのサービスの検討や，『電子資料契約実務必携』の作成に携われたことは，日本の大学図書館が電子資料に関してどのようなことに困っていてどんな改善が必要なのかを考える上で，非常に有意義な経験だった。また，国際的な比較や，海外の動向に気を配ることの重要性も肌で感じることができた。

加えて，JUSTICE 事務局および NII での研修を通じて，職場内の情報共有・コミュニケーションや，短期的な問題対処と長期的な展望の双方の視点を持って業務を行うこととといった，仕事において重要なことを改めて学んだので，こういったことも大学図書館での仕事に生かしていければと考えている。

7. 添付資料

柴田育子・西脇亜由子・藤江雄太郎「JUSTICE 事務局での研修について」
（実務研修生発表会平成 24 年 3 月 23 日(金)　発表資料）
藤江雄太郎「『電子資料契約実務必携』の作成について」
（実務研修生発表会平成 24 年 3 月 23 日(金)　発表資料）